

## 20231117 【替えがきく役割を守るために、替えがきかない役割を犠牲にしない】

今朝は、以前もご紹介した、在日ドイツ商工会議所SDGs賞審査員の谷口貴久さんの言葉をそのまま紹介します。はじめに、私の感想から申し上げます。文の中で、谷口さんは、仕事上の役割は「替えが効く」といっていますが、これは「替えが効かない」ことを協調するために敢えて対比として挙げたのだと思います。本当に言いたいことを協調するために「対比」の技法を用いることはとても効果的ですから。しかし、私たち「教師」は、この【替えが効く】ものとは異質だと思います。子どもにとってかけがえのない一瞬一瞬を共にし、成長を支え導く教師は、子どもにとって「たった一人のかけがえのない人」です。その、どうしようもない有り難さと、感謝の心を持って日々つとめていきたいですね。それでは、谷口さんの言葉をどうぞ。

### 【替えがきく役割を守るために、替えがきかない役割を犠牲にしない】

責任感の強い人ほど、仕事などにおいて、「自分がいないと...」と、つつい自己犠牲を払う。

そうして、自分の人生のかけがえのない時間を、もっと他のことに使えたかもしれない時間をつぎ込む。

気をつけたいのは、そうやって自己犠牲を払い、自分の大切なものをつぎ込めばつぎ込むほど、「自分がいないと...」は強くなる。

人は、それまでに自分が費やしたものを惜しみ、続ける事でさらに失うとわかっている、それをやめられない。

この心理現象を、『コンコルド効果』という。

僕も昔そうだったから、気持ちは痛いほどわかるけど、残念ながら、職業上の私たちは、基本的に替えがきく。

替えがきくからこそ、名前ではなく、職業や役職など、いわゆる肩書で呼ばれたりするのだ。

伝説とまでいわれる創業者、スティーブ・ジョブズがいなくても、Apple は過去最高益を更新し続けている。

あの島田紳助がいなくても、バラエティはまわっている。

(〇〇が見たい、〇〇じゃないと、という人も一定数いるとは思うけど)

その仕事からいったん離れると、驚くほどその職場が冷たく感じたり、親友だと思っていたりした人が、ただの同僚だったと気が付く事も少なくないという。

だけど、悲観的な話をしたいわけではない。

替えがきかない役割を大事にしてほしいという事が伝えたい。

替えがきかないあなたもいるんだ。

それは、自分の親にとっての、子どもであるあなた。

だから親は、あなたが社会的に成功するかどうかよりも、四六時中あなたの身体の心配をしている。

あなたの成功を代わりに引き受けてくれる人はいくらでもいるけれど、あなたの病を代わりに引き受けてくれる人はいないからだ。

また、かけがえのないパートナーにとってのあなたも替わりがきかない。

血が繋がっているわけではなくとも、替わりがきかない人がいる事は、人を本気で愛した事がある人ならわかってくれると思う。

そして何より、子どもにとっての親であるあなた。

どうか、優先順位を間違えないでほしい。